

2024年6月27日(木)

老球の細道808号

## ミニバスケットボール (U-12) サマーカップ地区大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ミニバスケット地区大会と並行して、北海道ではパリ五輪前の親善試合として男女日本代表対オーストラリア代表の試合が行われた。昔はとてもかなわなかったオーストラリア代表に女子は勝ち越し、男子は接戦の末1分1敗の好成績を残した。いつの日か、このような試合の中に会津で育った選手が存在することを願って止まない。

ミニバスケットに携わる子どもたちは将来の日本バスケットボール界の「ダイヤモンドの原石」である。この原石を選手はもちろん、コーチをはじめ大人たちがしっかり磨いて輝かせなければならない。ミニの選手たちの勝負は今ではなく将来にある。その日のためにバスケットは5人でプレイするので「五つのお願い」を大会の閉会式で話させてもらった。

### 1・家庭生活を大事にしよう

毎日の食事、睡眠などが丈夫な体を作る。親に言われたことを素直に聞く。家庭生活が充実してこそミニバスケットボールの活動が成立する。(爺は練習の送迎で活躍する)

### 2・学校生活を大事にしよう

バスケットボールの練習を言い訳にして宿題をやらない、授業中居眠りしているなどは本末転倒である。先生から言われたことを素直に聞く。学校生活をいいかげんにしてトップアスリートに成長した選手の話は聞いたことがない。(爺は忘れもの届けで活躍する)

### 3・バスケットボールの基礎基本をしっかり身につけよう

ミニの時代はバスケットボールを好きになることと基礎基本を身につけることが最重要課題である。確かな基礎基本を身につけるといことは、シュート、ドリブル、パスなどのスキルがディフェンスのプレッシャー下にあってもミスなくプレイできることである。

### 4・色々なスポーツ、たくさんの運動経験をしてコーディネーション能力を高める

今世界中で話題になっている米国の女子選手・ケイトリン・クラークがいる。今春アイオワ大学を卒業して来シーズンWNBAにドラフト第1位で入団する予定である。女子選手でありながら「世界最高のシューター」とスティーファン・カリーに言わしめた。彼女は5歳からバスケットを始め、男の子と一緒に練習をした。高校2年までサッカー、バレーボール、ソフトボール、テニス、ゴルフなど色々なスポーツをバスケットと並行しながら活動したという。そのような経験が後に彼女のバスケットボールプレイに化学反応を起こし、今までの常識を覆すモンスタープレイヤーに成長させることができた。(残念ながら彼女を知っている会津の子どもたちは、挙手させたら数人しかいなかった)

### 5・高い目標を持つ

今の実力がどうあれ、目指すはケイトリン・クラーク選手のような超一流。バスケットのみならず色々なことで凄いものに触れ、凄くなりたい熱い気持ちを燃やし続ける。燃えているうちに凄くなってしまおう。(暑い体育館の中、爺様は話で熱く、齢で厚くなる)